

日本創生委員会 <第39回 会議骨子>

文責 日本創生委員会 事務局
(JAPIC)

議事次第

2014年3月14日(金) 11:30~13:30

於：東京會館 9F ローズルーム

● 三村会長挨拶

● ディスカッション『日本の未来創生』

[ゲスト]

内閣府 政策統括官 羽深成樹 氏

国土交通省 国土政策局 大臣官房審議官 藤井 健 氏

[パネリスト]

日建設計総合研究所 会 長 安 昌 寿 氏

セブン銀行 会 長 安 齋 隆 氏

日本創生国土計画委員会 委員長 石田東生 氏

プロデューサー 残間里江子 氏

プライスウォーターハウスクーパース パートナー 野田由美子 氏

● 寺島委員長総括

以 上

< 三村会長挨拶 >

- アベノミクスによりデフレを脱却した日本がどこに向かうのかという、ビジョンが欠けている。本日の議論の形式は当会初の試みであるが、充実した議論を期待したい。

< ゲストスピーチ >

(内閣府 政策統括官 羽深成樹 氏)

- 経済財政諮問会議の下、「選択する未来委員会」が今年の1月に設置された。成長発展、人の活躍、地域の未来という3つのワーキンググループがあり、年内に報告書をまとめる予定。
- 長期的な人口減少、構造変化というのは「変えられない未来」としてほぼ確実にやってくる。そうした状況の下、「日本は何で稼いでいくのか」「少子化対策、移民の受け入れの問題」などの課題がある。
- 人口、生産性、社会保障、雇用等について、「選択の視点」ということで色々なテーマ毎に整理している。

(国土交通省 国土政策局 大臣官房審議官 藤井 健 氏)

- 新たな「国土のグランドデザイン」について2050年をターゲットとし、そこからさかのぼって物事を考える(バックキャストिंग)という恰好で議論をしている。
- 議論途上ではあるが、ポイントは「コンパクト」かつ「ネットワーク」。人口減少局面の中、限られた財源でサービス効率を上げるためには、コンパクトかつネットワークというのが新しい選択と集中の形ではないか。あるいは、新しい成長を目指していかなければならないとすれば、新しい集積のかたちを作っていかなければならない。
- その時、「交通革命」と「情報革命」二つの大きな変化をおさえなければならない。

<パネリストスピーチ>

(JAPIC日本創生国土計画 委員長 石田東生 氏)

- JAPICらしく具体的なプロジェクトを提案するための国土計画を検討中である。東京都と地方のつながりや環境と資源など。「環」というキーワードで明るい未来を考えたい。

(プライスウォーターハウスクーパース パートナー 野田由美子 氏)

- 「都市ソリューションの輸出」をキーワードとして挙げたい。急成長をした上で環境を考慮した都市づくりを経験した日本は、そのノウハウをアジアをはじめ世界に提供できるのではないか。
- 日本の場合は、都市開発のノウハウが各都市、各自治体、国、民間企業に散在しているため、相手の都市に伝わりにくい。2020年の五輪は世界に日本の都市の素晴らしさを展開する好機であろう。

(日建設計総合研究所 会長 安 昌寿 氏)

- 国産木材の利用推進が重要だ。森林保護だけでなくデザインとして日本を表現する事に役立つのではないか。
- 「公共交通機関の強化」「公園整備等による美しい都市づくり」「全国の市街地整備問題」をキーワードとしたい。

(セブン銀行 会長 安齋 隆 氏)

- 少子化問題は深刻だ。例えば孫を4人以上もったら相続税をゼロにするとか、今までにない方法で人口減少に歯止めをかけることが必要。公共事業の人手不足が深刻だが、外国人移民の受け入れ(環境づくり)についても各省庁の縦割りをなくし、官民一体で議論していくことが必要。

<パネリストスピーチ>

(プロデューサー 残間里江子氏)

- 日本の未来を描くにあたっては、日本人の劣化、脆弱ぶりが問題となるだろう。日本創生委員会のもつ「大人の知見」を持って、具体的に歩みを進めるしかないのではないか。

<ディスカッション>

(コーディネーター)

- 本日は新たな試みとして、配席を変更し出席創生委員のおよそ半数の方に中央の口の字テーブルに着席いただいた。我が国の将来のあるべき姿について「2020年東京五輪に向けて何をなすべきか」「2050年に向けてどの様に未来創生するか」「世界に向けて日本をどう発信するか」を討議テーマとしたい。

(JAPIC副会長 中村英夫 氏)

- 東京の外濠は下水が入り、臭いが出る。オリンピックのマラソンコースとして世界に映像が放映される事もあり皆さんに考えてもらいたい。また、三陸に空港をつくり観光需要を生み出し、雇用創出をはかりたい。インフラ老朽化に対応するセンサー、データ処理は世界で大きなマーケットになる。東京オリンピックを控え、大地震に対する備えをしっかりとやる必要がある。

(JAPIC日本創生国土計画 委員長 石田東生 氏)

- 特にパラリンピックに焦点を当てた羽田、成田間の徹底的なバリアフリー化を提案したい。

(セブン銀行 会長 安齋 隆氏)

- 首都高地下化は、美観や地震対策として有効だ。女性の労働については、人々が思い込みで特定してしまっている面がある(例えば、ダンプカーの運転)。女性も甘えずに様々な仕事にチャレンジして欲しい。大学教授は広い視野で教育に取り組んでほしい。

<ディスカッション>

(朝日新聞社 代表取締役社長 木村伊量 氏)

□ 2020年の東京五輪までの6年間、日本のあり方の議論が大切だ。人口問題とエネルギー問題抜きにはできないだろう。エネルギーインフラの整備、中国、韓国など周辺諸国に対する問題が重要。

(大阪商業大学 客員教授・東洋大学大学院 客員教授 美原 融 氏)

□ カジノを中心にした統合型リゾート整備は、日本の大都市東京が世界に向けて開く大きなチャンス。オリンピックまでに実現しようと国会議員の先生方の動きがあるが、ハードルも多い。日本人は制度やビジョン作成は上手いが実現させるために人間の中身を変える事が必要ではないか。日本をどうやって売り込むかを外に向かって発信するガッツやパワーが必要だ。

(丸紅 秘書部長兼広報部担当役員付部長 島崎 豊 氏)

□ (2050年に向けてどのように未来創生してゆくか)人材育成の情報提供をすると、慶應義塾大学の取組みの中で「リーディング大学院」がある。これは文部科学省認可の週末を利用して、企業人によるリーダーシップ教育である。

(JAPIC日本創生国土計画 委員長 石田東生 氏)

□ 現実の社会問題に対応しうる教育が必要との観点から、筑波大学においても、JAPICの協力を得て産業界・政界・官界で活躍する方々に講義をしていただく授業を行っている。

(双日 顧問・元副社長 田邊弘幸 氏)

□ 団塊世代で時間に余裕のある人間を(海外で活躍した経験者など)現役世代への教育に活用できないものか。JAPICや商工会議所など、母体が動く事で横展開する可能性がある。

□ 各大学の先進的な取組を併合する事も考えたい。現時点では個別の動きであるため、少子化やグローバル競争に対抗しづらい。

(文部科学省 高等教育長 吉田大輔氏)

□ 海外の駐在経験者の活用とネットワーク化は重要であり、文部科学省では、大学の世界展開力の推進事業を実施している。

<ディスカッション>

(日建設計総合研究所 会長 安 昌寿 氏)

□ 日本の住宅は50坪程度の狭い敷地が多く、資産価値・相続などの問題で住宅地が歯抜け状態になっている。コンパクトシティ化と同時に市街地形成を見直すべきだ。

(キャノングローバル戦略研究所 理事・研究主幹 湯原哲夫 氏)

□ 世界的に急成長して膨大な市場は石油・天然ガス市場であり、産業として参入する事が必要。日本は洞爺湖サミットで宣言したCO2半減を遵守すべき。人工衛星は津波を事前に察知する技術として重要。

(住友商事 理事・資源・化学品事業部門長付 山崎亜也 氏)

□ 海洋開発において、海洋基本計画にもある通り海外企業との連携を検討すべき。ハード、ソフトの両面から日本のブランド力を再評価し、十分に活用していく事が必要。

(JAPIC日本創生国土計画 委員長 石田東生 氏)

□ 地方都市の活用再生について、国土計画的観点からしっかり国で定める必要がある。テーマ毎に連携する都市を柔軟に考える姿勢はフランスやイギリスの例が参考になる。

(内閣官房 地域活性化統合事務局長 川本正一郎 氏)

□ 高齢化や産業の衰退が進む地方自治体が前向きになるようなインセンティブや仕掛けが重要。地域のマインド、モチベーションが上がるシステム化を検討したい。

□ オリンピックを機にハードや街づくりに目が向きがちだが、日本人の立ち位置を再考する必要がある。

(日建設計総合研究所 会長 安 昌寿 氏)

□ 安倍首相の観光客増加政策があるが、受け入れるホテルを増やすだけでなく、一般家庭で観光客を受け入れる取組みがネット上で行われているので情報提供する(エア－B&B(ベッドアンドブレックファスト)という)。

<ディスカッション>

(国際航業 呉 文繡 会長)

- 日本の将来としては「極東の静かな国」より「ヒト・モノ・カネの集まる国」を目指したい。
- アジアにおける日本のリーダーシップが重要。その事を示す上でオリンピックは良い機会だ。
- 「インフラの老朽化」や「人口の高齢化」、「エネルギー問題」「(日本が弱いとされている)リスクプランニング」など日本が抱える様々な課題や問題点について結果だけではなく、『どの様なスキームで取組むか』を世界に発信すべきだろう。
- 東京オリンピックにより、日本人の自信を取り戻し、世界に向けてマナーと笑顔を発信してもらいたい。

(内閣府 政策統括官 羽深成樹氏)

- 日本人のブランドは公共心、優しさ、思いやりだろう。痛みを伴う改革の場面ではデメリットになる面もあるが日本の良いところを大切にしたい。
- 産業構造会議で議論している『PFI』に関し、コンセッション型について推進していこうと思うので、今後共ご協力をお願いしたい。

(セブン銀行 会長 安斎 隆 氏)

- 日本人は若者だけでなく、老人も問題がある。介護の支援を演技で獲得し裏では海外旅行に行く人が多い。日本人の「絆」や「寄り添う」といった優しさは逆を言えば「甘え」に通じることもある。若者へは世界で通用するには自立の必要性を訴えたい。

(コーディネーター)

- 「夢なきところに成功なし」という言葉がある。本日の議論全体を通してのキーワードではないか。

<寺島委員長総括>

- 未来を議論する上でのポイントは「構想力」と「エンジニアリング力」
- 日本発展の原動力は「通商国家モデル」。しかし今後は「脱工業生産モデル」の構築が必要。
- 自動車以降のプロダクトサイクル、自動車産業への過剰依存から脱却する必要がある。人口減少サイクルに立ち向かうためには、「移動」と「交流」をテコにした活性化が必要。あえて言えば、観光立国論を実体のあるものにする。つまり、プロジェクトエンジニアリングの力を発揮して、構想力を現実のプロジェクトに落とし込んでいくことがカギとなる。
- なかでも、IR＝統合型リゾートは一つのキラークンテンツであり、世界から人が集まる仕掛けの一つであろう。世界の中でスイスやシンガポールが観光で成功しているのはコンベンションや医療ツーリズムといった戦略があるから。世界で通用する若者の教育の場としてIRが活用できる可能性がある。

以上